

令和6年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔特別の教科 道徳〕 種目〔道徳〕

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [特別の教科 道徳] 種目 [道徳]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市は、人類史上最初の原子爆弾が投下された都市であり、「ほかの誰にもこんな思いをさせてはならない」という被爆者の願いや世界恒久平和を願う市民の心を基盤として、人間の尊厳や生命の尊さを自覚し、自他共に大切にし、正義感や公正さを重んじ、人と自然の共生する平和な社会を築いていく心を育て、自立して行動する力を養うことを教育の原点としている。
- 令和4年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査において、自尊意識や自己有用感に関する項目で8割以上の児童が肯定的な回答をしていることから、本市の児童は、自分を認める心や人の役に立ちたい気持ちが育ってきていることが分かる。また、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答をした児童の割合は、80.9%（全国80.0%）であった。一方、令和3年度「不登校・暴力行為・いじめの状況について（報告）」によると、不登校児童数やいじめの認知件数、暴力行為発生件数は、前年度より増加傾向が見られる。引き続き、日常の様々な道徳的な問題や自己の生き方についての課題に対して、児童が問題意識をもち、主体的に考え、行動しようとする意欲や態度を育成する取組が必要である。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 道徳科の学び方の示し方 ② 自己の生き方について考えを深めるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 問題意識をもたせるための工夫 ④ 読み物教材における発問の工夫 ⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向 ⑦ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方
<内容の表現・表記>	⑧ 教材の内容を理解させる工夫
<言語活動の充実>	⑨ 考えることや議論が活発に行われるための工夫

3 各教科書の特徴

東京書籍

1 基礎・基本の定着

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 「なにを学ぶのかな」というタイトルで、4つの視点と内容項目を教材と関係付けて示している。
- 学習の流れは、「気づく」、「考える」、「広げる・深める」の3つの段階で示している。

視点② 自己の生き方について考えを深めるための工夫

- 巻末に、「学習の記録」というタイトルで学期の終わりや、長期休みの前に学習の振り返り、心に残った話やこれからの生活に生かしたいことなどを記述するページを設けている。
- 各教材に「考えよう」というタイトルで、これまでの自分を振り返り、自己を見つめ、これからの生き方につなげていく発問を示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 問題意識をもたせるための工夫

- 3年からは、教材文の後ろに、「みんなで考えたいこと」を投げかける発問例を示している。
- ※ 1年は6番目の教材まで、単元冒頭に「はじめに」として、同様の発問を示している。

- 【発問例】「手品師」(6年)
 - ・ 誠実な生き方とは、どんな生き方？

視点④ 読み物教材における発問の工夫

- 【導入以外の発問例】(・：教材に関する発問 ◎：中心発問 ●：自分の生き方につながる発問)
 - 「二わのことり」(1年)
 - ◎ みそさざいは、やまがらの家へ行きながら、どんなことを思っていたのでしょうか。
 - 友達と仲良くするために、あのときは自分がこうすればよかったと思うことはありますか。
 - 「手品師」(6年)
 - ◎ 翌日、たった一人のお客さまを前に手品を演じる手品師は、どんなことを思っていたのでしょうか。
 - あなたが考える誠実な生き方とはどんな生き方でしょう。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習として、役割演技や動作化について示している。
- 役割演技や動作化の数(合計 8教材)
 - 1年：2教材 2年：2教材 3年：1教材 4年：1教材 5年：1教材 6年：1教材

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	10	9	9	6	34
2	11	8	10	6	35
3	8	9	11	7	35
4	9	8	11	7	35
5	9	7	12	7	35
6	8	7	12	8	35

- A：主として自分自身に関すること
- B：主として人との関わりに関すること
- C：主として集団や社会との関わりに関すること
- D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑦ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- いじめ問題、情報モラル、生命尊重などを現代的な課題として扱っている。
- 現代的な課題について、内容項目の異なる複数の教材を組み合わせた学習を各学年に1つ設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 教材の内容を理解させる工夫

- 挿絵の数
 - ・ 1年「二わのことり」(4)
 - ・ 6年「手品師」(3)
- 教材における登場人物の紹介
 - ・ 1年「二わのことり」(なし)
 - ・ 6年「手品師」(なし)

5 言語活動の充実

視点⑨ 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 各教材の後ろに、「考えよう」という示し方で、2問の発問を設定している。
- 考えたり話し合ったりすることについて説明しているページ
 - ・ 「ちょっと話し合ってみよう！」というタイトルで、話し合うときの伝え方の例を示している。
 - ・ 「考えるためのツール」というタイトルで、思考ツールの活用について示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 「道徳で学習すること」というタイトルで、4つの視点と内容項目を教材と関係付けて示している。
- 学習の流れは、3年から、「考えよう」、「深めよう」、「つなげよう」、「今日の学習をふり返ってみよう」の4つの段階で示している。

視点② 自己の生き方について考えを深めるための工夫

- 各教材の後ろに、毎時間の学習を振り返り、「しっかり考えられた」「新しく気づいたことがあった」「大切にしたいことがわかった」と示し、チェック欄を設けている。また、巻末に、学期末や年度末に、これまでの学習を通して感じたことや考えたこと、これからの生活に生かしていきたいことなどを記述するページを設けている。
- 教材に応じて、「つなげよう」というタイトルで、学んだことをこれからの生活にどのように生かせるかを考える発問を示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 問題意識をもたせるための工夫

- 各教材の始めに、ねらいとする道徳的価値や教材の内容への導入を図る発問例を示している。
- 【発問例】「手品師」（6年）
 - ・ 「誠実な人」「誠実な行動」などということがあるよね。「誠実」ってどういうことかな。

視点④ 読み物教材における発問の工夫

- 【導入以外の発問例】（・：教材に関する発問 ◎：中心発問 ●：自分の生き方につながる発問）
 - 「二わのこどり」（1年）
 - ・ みそさざいは、どうしてうぐいすのうちから抜け出して、やまがらのうちへ向かったのでしょうか。
 - ◎ 喜ぶやまがらを見て、みそさざいはどのような気持ちになったのでしょうか。
 - 友達がいてよかったなと思ったり、嬉しいなと思ったりしたことはありますか。
 - これから、友達とどのように生活していきたいですか。
 - 「手品師」（6年）
 - ・ 友人からステージへの出演の電話を受けたとき、手品師はどのようなことを考えたでしょう。
 - ◎ 手品師の行動について、どのように思いますか。みんなで話し合しましょう。
 - 誠実に生きるとは、どのようなことでしょうか。自分の考えをまとめて発表しましょう。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習として、役割演技やモラルスキルトレーニングについて示している。
- 役割演技や動作化の数（合計 25教材）
 - 1年：4教材 2年：4教材 3年：7教材 4年：4教材 5年：3教材 6年：3教材

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	10	8	12	4	34
2	11	8	12	4	35
3	9	9	12	5	35
4	9	10	10	6	35
5	10	6	13	6	35
6	8	8	12	7	35

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑦ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- SDGs、食育、防災などを現代的な課題として扱っており、いじめ問題や情報モラル、伝統文化と国際理解などに関する内容を「重点テーマ」として示している。
- 現代的な課題、「重点テーマ」について、内容項目の異なる複数の教材を組み合わせた学習を1～5年は2つ、6年は3つ設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 教材の内容を理解させる工夫

- 挿絵の数
 - ・ 1年「二わのこどり」（4）
 - ・ 6年「手品師」（4）
- 教材における登場人物の紹介
 - ・ 1年「二わのこどり」（なし）
 - ・ 6年「手品師」（なし）

5 言語活動の充実

視点⑨ 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 各教材の後ろに、「考えよう」、「深めよう」という示し方で、2～3問の発問を設定している。
- 考えたり話し合ったりすることについて説明しているページ
 - ・ 「道徳ではこんな学び方をするよ」というタイトルで、話し合っって考えることや演じて考えること、書いて考えることについて説明している。

1 基礎・基本の定着

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 道徳科で学習する内容について、「道徳が始まるよ」というタイトルで「道徳で学ぶ〇のとびら」として、4つの視点と内容項目を示している。
 - ※ 1年は「どうとくでは、なにをかながえるのかな」として、4つの視点のみを示している。
 - ※ とびらの数は学年で異なる。
- 学習の流れは、「考えたいことに気づく」、「よりよい生き方について考える」、「学んだことをつなげる」の3つの段階で示している。

視点② 自己の生き方について考えを深めるための工夫

- 巻末に、「学びの記録」というタイトルで、毎時間の学習を振り返り、1～4年は、「たくさん考えることができた。」「友達の話をよく聞くことができた。」「もっと考えたい、もっとしてみたいことが見つかった。」、5・6年は「自分のこととして考えることができた。」「友達の考えを聞いて、自分の考えが深まった。」「もっと考えたい、やってみたいことが見つかった。」という3つの観点について、シールやマークを付けて記録するページを設けている。さらに、5・6年は一言感想を記録する欄を設けている。
 - 各教材に「つなげよう」というタイトルで、自分の生き方につなげる発問を示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 問題意識をもたせるための工夫

- 各教材の始めに、ねらいとする道徳的価値や教材の内容と日常生活をつなぐ発問例を示している。
- 【発問例】「手品師」(6年)
 - ・ だれかと約束したのに、守れなかったことってある？

視点④ 読み物教材における発問の工夫

- 【導入以外の発問例】(・：教材に関する発問 ◎：中心発問 ●：自分の生き方につながる発問)
 - 「二わのことり」(1年)
 - ・ 迷ったみそさざいが、うぐいすのうちに飛んでいったのは、どうしてでしょう。
 - ◎ みそさざいは、どんなことを考えながら、やまがらのうちへ行ったのでしょうか。
 - ・ 二羽のことりは、お誕生日のお祝いで、どんなお話をしたと思いますか。みそさざいとやまがらになって、演じてみましょう。
 - 「手品師」(6年)
 - ・ 友人の「いい話」を聞きながら、手品師は、どんなことを思っていたでしょう。
 - ◎ 手品師は、どんな思いで、たった一人のお客さまの前で手品を演じたのでしょうか。
 - あなたは、「誠実に生きる」とは、どんな生き方のことだと思いますか。
 - 人々から誠実さがなくなると、世の中は、どうなるかな。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習として、役割演技や実感を伴って生命に対する考えを深める活動について示している。
- 役割演技や動作化の数(合計 20教材)
 - 1年：5教材 2年：4教材 3年：5教材 4年：3教材 5年：1教材 6年：2教材

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	10	8	11	5	34
2	10	8	11	5	34
3	9	9	11	5	34
4	9	9	11	5	34
5	10	9	9	6	34
6	8	9	10	7	34

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑦ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- いじめ問題、情報モラル、環境などを現代的な課題として扱っている。
- 現代的な課題について、内容項目の異なる複数の教材を組み合わせた学習を1・2年は1つ、3～6年は3つ設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 教材の内容を理解させる工夫

- 挿絵の数
 - ・ 1年「二わのことり」(4)
 - ・ 6年「手品師」(6)
- 教材における登場人物の紹介
 - ・ 1年「二わのことり」(あり)
 - ・ 6年「手品師」(なし)

5 言語活動の充実

視点⑨ 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 各教材の後ろに、「考えよう」、「話し合おう」という示し方で、2～3問の発問を設定している。
- 考えたり話し合ったりすることについて説明しているページ
 - ・ 「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」というタイトルで、話し合いのポイントや話し方の例を紹介している。
 - ・ 「考えるヒント」というタイトルで、役割演技の手順や、話し合いを活発にする言葉など、考えることを楽しめるような手立てを示している。
 - ・ 「考える準備たいそう」というタイトルで、対話の練習をするページを設けている。
 - ・ 「学びの工具箱」というタイトルで、思考ツールの活用について紹介している。

1 基礎・基本の定着

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 「道徳のとびら」というタイトルで、4つの視点と内容項目を示している。
- ※ 1・2年は4つの視点のみを示している。
- 学習の流れは、「気づく」、「考える・深める」、「見つめる・生かす」の3つの段階で示している。

視点② 自己の生き方について考えを深めるための工夫

- 別冊のノートに、毎時間の学習を振り返り、感じたことや考えたこと、これからの生活に生かしていききたいことなどを記述する欄や、「しっかり考えた」「友達の見解から新しく気づいたことがあった」「これから大切にしたいことがわかった」について、マークを使って記録する欄を設けている。また、ノートの途中に、「ここまでの学習を振り返ってみよう」というタイトルで、これまでの学習を振り返り、心に残った話について記述するページを設けている。
- 各教材に「見つめよう生かそう」というタイトルで、学習内容をこれからの生活に生かしていくための発問を示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 問題意識をもたせるための工夫

- 各教材の始めに、教材の内容への導入を図る発問例を示している。
- 【発問例】「手品師」（6年）
・ 「手品師」というお話を通して、「誠実」ということについて、みんなで考えましょう。

視点④ 読み物教材における発問の工夫

- 【導入以外の発問例】（・：教材に関する発問 ◎：中心発問 ●：自分の生き方につながる発問）
「二わのことり」（1年）
◎ やまがらの涙を見て、みそさざいはどんな気持ちだったのだろう。
● 友達のことを考えて行動したとき、どんな気持ちになっただろう。
「手品師」（6年）
◎ たった一人のお客様の男の子の前で、手品を演じているときの手品師は、どんな気持ちだっただろう。
● この学習を通して、「誠実に生きる」ということについて、自分の思いをまとめよう。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習として、役割演技や教材と関連付けた実践的な活動について示している。
- 役割演技や動作化の数（合計 12教材）
1年：1教材 2年：2教材 3年：2教材 4年：2教材 5年：3教材 6年：2教材

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	11	8	13	5	37
2	11	9	12	6	38
3	11	10	12	5	38
4	9	10	13	6	38
5	9	10	13	6	38
6	10	9	13	6	38

A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑦ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- 安全、防災、平和・人権などを現代的な課題として扱っており、いじめ問題に関する教材を「人との関わり」というキーワードで示している。
- 現代的な課題、「人との関わり」について、内容項目の異なる複数の教材を組み合わせた学習を1年は2つ、2～6年は3つ設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 教材の内容を理解させる工夫

- 挿絵の数
・ 1年「二わのことり」（4）
・ 6年「手品師」（4）
- 教材における登場人物の紹介
・ 1年「二わのことり」（あり）
・ 6年「手品師」（あり）

5 言語活動の充実

視点⑨ 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 各教材の後ろに、「考えてみよう」、「見つめよう・生かそう」という示し方で、2問の発問を設定している。
- 考えたり話し合ったりすることについて説明しているページ
・ 「道徳の学び方」というタイトルで、話すこと、書くことなどの学習方法について紹介している。

1 基礎・基本の定着

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 「ゆたかな心」というタイトルで、4つの視点と内容項目を示している。
- 学習の流れは、「問いを見つけよう」、「考えよう」、「まとめよう・ふりかえろう」、「ひろげよう・つなげよう」の4つの段階で示している。

視点② 自己の生き方について考えを深めるための工夫

- 巻末に、「学びの足あと」というタイトルで、毎時間の授業を振り返り、自分の気持ちをマークや言葉を使って記録したり、学期や年度末に、これまでの学習を振り返り、分かったこと、感じたこと、やってみようことなどを記述したりするページを設けている。また、「なりたい自分」について記述する欄を設けている。
- 各教材に「広げよう」というタイトルで、学習内容が日常生活に生かしていくための発問を示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 問題意識をもたせるための工夫

- 各教材の始めに、ねらいとする道徳的価値や教材の内容への導入を図る発問例を示している。
- 【発問例】「手品師」(5年)
 - ・ 「誠実に生きる」とは、どのような生き方のことかな。

視点④ 読み物教材における発問の工夫

- 【導入以外の発問例】(・：教材に関する発問 ◎：中心発問 ●：自分の生き方につながる発問)
 - 「二わのことり」(1年)
 - ◎ どうしてみそさざいは、やまがらの家に行ったのかな。
 - ・ みそさざいと他の小鳥たちとの違いは何か。
 - クラスの人とどんな友達になりたいかな。
 - 友達思いの人の話を聞いてみよう。
 - 「手品師」(5年)
 - ◎ 手品師は、なぜ大劇場に出られるチャンスを断ったのかな。
 - ・ 手品師のどんなところが誠実かな。
 - 「誠実に生きる」とは、どのような生き方か、今日の学習で考えたことをまとめよう。
 - 手品師の生き方で、どんなところが自分に生かせるか考えてみよう。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習として、役割演技や教材と関連付けた実際の問題場面を想定した活動について示している。
- 役割演技や動作化の数(合計 6教材)
 - 1年：1教材 2年：1教材 3年：1教材 4年：1教材 5年：1教材 6年：1教材

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	11	9	13	7	40
2	10	10	13	7	40
3	10	11	12	7	40
4	8	11	14	7	40
5	9	8	14	9	40
6	9	8	15	8	40

A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑦ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- 生命尊重・自然、情報モラル、へこんでも立ち直る心などを現代的課題として扱っており、いじめや命などに関する内容を「重点主題」として示している。
- 現代的な課題、「重点主題」について、内容項目の異なる複数の教材を組み合わせた学習を各学年に3つ設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 教材の内容を理解させる工夫

- 挿絵の数
 - ・ 1年「二わのことり」(4)
 - ・ 5年「手品師」(4)
- 教材における登場人物の紹介
 - ・ 1年「二わのことり」(あり)
 - ・ 5年「手品師」(なし)

光 文 書 院	<p>5 言語活動の充実</p> <p>視点⑨ 考えることや議論が活発に行われるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各教材の後ろに、「考えよう」、「まとめよう」という示し方で、3問の発問を設定している。 ○ 考えたり話し合ったりすることについて説明しているページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 「話し合って考えてみよう」というタイトルで、話し合いを活発にする言葉を示している。 ・ 「いろいろなやり方で考えてみよう」というタイトルで、思考ツールの活用について示している。 ・ 「まとめよう・ふりかえろう」というタイトルで、ノートやプリントへのまとめ方について紹介している。
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1 基礎・基本の定着

視点① 道徳科の学び方の示し方

- 4つの視点と内容項目を教材と関係付けて示している。
 - ※ タイトルは学年によって異なる。
- 学習の流れは、3・4年は「お話をもとに考えよう。」「話し合い高め合おう。」「自分を見つめ深めよう。」、5・6年は「見つけよう。」「考えよう。」「生かそう。」の3つの段階で示している。

視点② 自己の生き方について考えを深めるための工夫

- 巻末に、一年間の学習を振り返り、心に残った話や言葉、自分へのメッセージなどを記述するページを設けている。
- 各教材に「考えよう」というタイトルで、自己を見つめて考えるきっかけとなる発問を示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 問題意識をもたせるための工夫

- 1年の中盤から、各教材の始めに、教材中の言葉を取り上げ、掲載している。
- 【記載例】「手品師」(5年)
 - ・ きっとだね。きっと来てくれるね。

視点④ 読み物教材における発問の工夫

- 【導入以外の発問例】(・：教材に関する発問 ◎：中心発問 ●：自分の生き方につながる発問)
 - 「二わの小鳥」(1年)
 - ◎ みそさざいが、やまがらのうちへ行ったのは、なぜだろう。
 - お話を読んで、大切なことはどんなことだと思ったかな。
 - 「手品師」(5年)
 - ◎ 友人からのさそいの電話がかかってきたとき、手品師は心の中でどんなことを考えただろう。
 - 自分が手品師だったら、どんなことを大切にしようか。

視点⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫

- 体験的な学習として、役割演技や教材と関連付けて考えを深める活動について示している。
- 役割演技や動作化の数(合計 7教材)
 - 1年：2教材 2年：1教材 3年：1教材 4年：1教材 5年：1教材 6年：1教材

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	11	8	9	6	34
2	12	8	9	6	35
3	9	9	11	6	35
4	9	9	11	6	35
5	9	8	10	8	35
6	9	8	11	7	35

- A：主として自分自身に関すること
 B：主として人との関わりに関すること
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

視点⑦ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- 生命やいじめ防止、キャリアなどを現代的な課題として扱い、生命の尊さに関わる内容を「最重点テーマ」としている。
- 現代的な課題、「最重点テーマ」について、内容項目の異なる複数の教材を組み合わせた学習を各学年に3つ設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 教材の内容を理解させる工夫

- 挿絵の数
 - ・ 1年「二わの小鳥」(9)
 - ・ 5年「手品師」(4)
- 教材における登場人物の紹介
 - ・ 1年「二わの小鳥」(あり)
 - ・ 5年「手品師」(なし)

5 言語活動の充実

視点⑨ 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 各教材の後ろに、「考えよう」という示し方で、1～2問の発問を設定している。
- 考えたり話し合ったりすることについて説明しているページ
 - ・ 「道徳の時間が始まるよ」というタイトルで、話し合っているいろいろなものの見方、感じ方、考え方にふれることや演じたり体験したりして考えること、書いて考えることについて説明している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「日常の様々な道徳的な問題や自己の生き方についての課題に対して、児童が問題意識をもち、主体的に考え、行動しようとする意欲や態度を育成する」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和6年度から使用する小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 各教材の始めに、ねらいとする道徳的価値や教材の内容を日常生活とつなぐ発問例を示しており、児童が教材の場面と日常生活を関連させて自分の生活を振り返り、問題意識をもって考えることができるとともに、教員が授業の導入を行いやすい。
- ・ 「みんなで気持ちよく話し合うコツ」、「考える準備体操」、「学びの工具箱」というページの中に、話し合いを活発にする言葉やうなずきの例、思考ツールの活用などについて示しており、学級の支持的な雰囲気をつくった上で議論を活発に行いながら考えを深めることができるようにしている。
- ・ 体験的な活動を通して考える学習を行う際、教材の後ろに役割演技を促す発問例を示していたり、役割演技を取り入れた学習を促す「考えるヒント」というページの中に役割演技の手順を示していたりすることにより、児童が見通しをもてるとともに、教員も授業を進めやすい。

意見2 光文書院の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 各教材の始めに、ねらいとする道徳的価値や教材の内容に関する発問例を示しており、児童が問題意識をもって学習に臨むことができるとともに、教員が授業の導入を行いやすい。
- ・ 「話し合って考えてみよう」、「いろいろなやり方で考えてみよう」というページの中に、話し合いを活発にする言葉や、思考ツールの活用について示しており、言語活動を生かして学習を展開することができるように促している。
- ・ 現代的な課題等について、いじめや命などに関する内容を「重点主題」として取り上げており、内容項目の異なる複数の教材を組み合わせた学習を各学年3つ設定することで、現代的な課題を児童の身近な問題と結び付け、自分との関わりで考えることができるようにしている。

「令和6年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について(答申)」
 において意見を付された教科用図書一覧

番号	種 目	発 行 者	
		よりふさわしい	ふさわしい
1	国 語	光村図書出版	東京書籍
2	書 写	東京書籍	教育出版
3	社 会	東京書籍	教育出版
4	地 図	帝国書院	東京書籍
5	算 数	東京書籍	教育出版
6	理 科	教育出版	新興出版社啓林館
7	生 活	教育出版	東京書籍
8	音 楽	教育出版	教育芸術社
9	図画工作	日本文教出版	開隆堂出版
10	家 庭	開隆堂出版	東京書籍
11	保 健	光文書院	大修館書店
12	英 語	東京書籍	開隆堂出版
13	道 徳	光村図書出版	光文書院